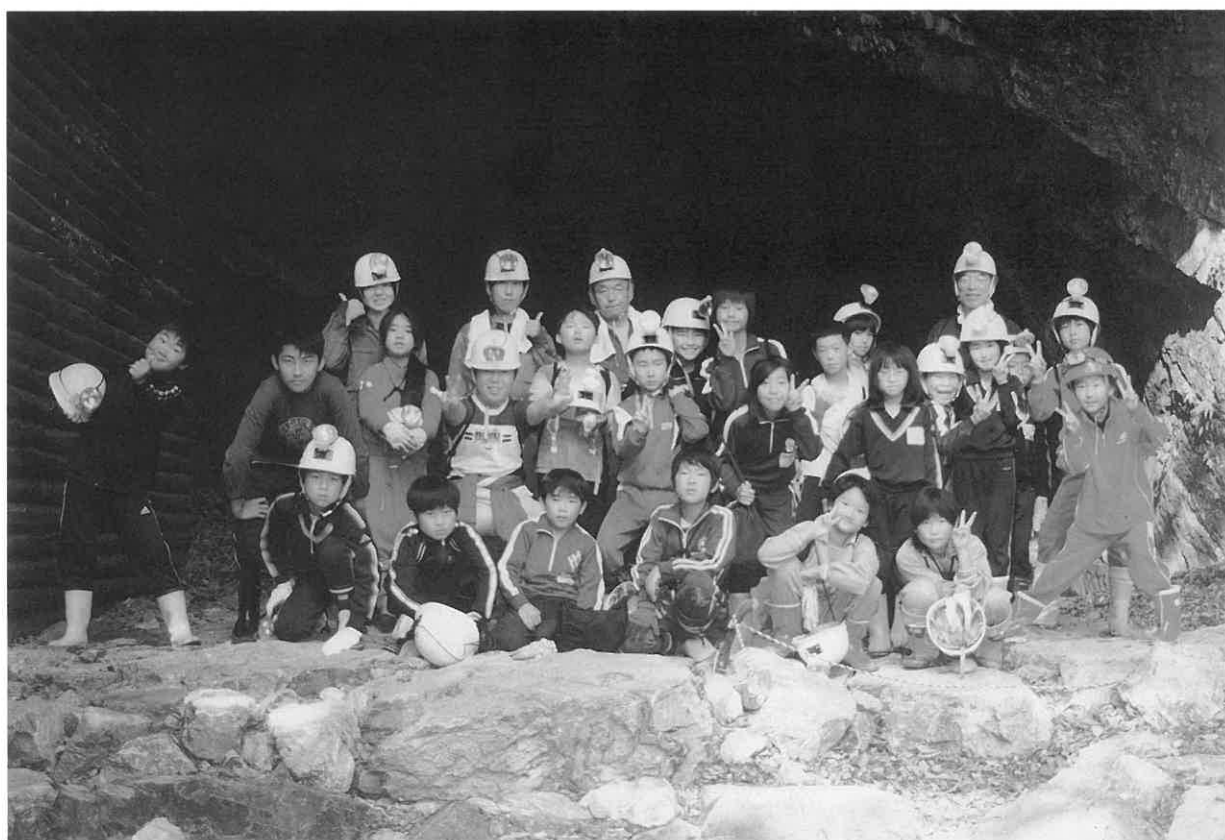


鬼	北上市立	館
だ	の	より
第23号		



### 北上の鬼っこ、“ナモミ”の里岩泉へ！

秋田のナマハゲのように大晦日や小正月の晩、異形の面をつけ、蓑を着た恐ろしげな風貌の村人が家々をまわり、祝福の言葉を述べる慣わしは岩手県ではナモミ、スネカ、などと称されていますが今回は、8月1日から8月3日まで「鬼っこ合宿～黄金バットを探せ！」と題し、“ナモミ”の里岩泉町の安家へ行ってきました。合宿は好天に恵まれ、市内小学校から集まったお友達と海水浴や川遊び、花火などを元気いっぱい楽しんでたくさんの思い出を作りました。氷渡探検洞ではやっと人一人通れるような細い抜け穴をくぐったり、鍾乳洞の中にキラキラ輝く星座を見つけたりと長い時間をかけて自然が育んだ産物に圧倒されました。

鬼の館  
05

上半期をふりかえる

企画展19

三鬼画人展

～生きとし生けるもの 百鬼百様～

栃久保 操・野村 たかあき・伊藤 卓美

7月24日(日)～9月15日(木)

三人の芸術家それぞれの鬼に対する精神世界を表現した美術作品を公開しました。

画家 栃久保 操 ▶

現代に誕生した鬼で、角で宇宙からの電磁波を捉えて交信も出来、地球をめぐる自然の健全状況も感知できる鬼だそうです。

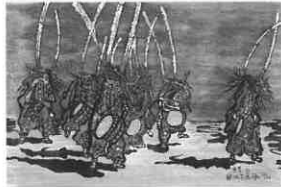


版画家 伊藤 卓美 ▶

郷土芸能のすばらしさをどうしたら継承できるか、そこでたどり着いた答えは「好きな版画の作品として残す」ということだったそうです。

◀ 版画・彫刻家 野村 たかあき

人間になりたい鬼を主題に、人間を安心させるため心の限りを尽くしその場に「笑い」をつくる大変かわいらしい鬼です。



特別展・開放事業

藤田敏夫 彫刻展 ～森の仲間たち～

4月26日(火)～6月4日(土)

鬼の館では、サークル活動や個人活動などを通じて、各種創作活動に携わり制作された作品を公開する場として企画展示室をご利用いただいています。沢内村にお住まいの藤田敏夫さんの作り上げたコレクションの中からフクロウや鳥、十二支など100点ほどの展示となりました。恐ろしい形相をした鬼が並ぶ常設展に対して、森の動物たちのかわいらしい表情に心が和んだのではないのでしょうか。



特別展

メキシコの鬼神 ～カーニバルの神々～

6月14日(火)～7月14日(木)

多部族国家であるメキシコは、カトリック教義と固有の古代宗教が混合した独特な霊的シャーマニズムや祭りを持つことで知られています。これら聖週間習俗に使用される各種の仮面や、故 利根山光人氏が現地で描いた習俗スケッチ及び絵画資料、約82点を展示しました。



■ 第11回大乘神楽大会 6月12日(日)

今年で第11回目をむかえる大乘神楽大会。今年には花巻市の胡四王神楽保存会をお招きしての開催となりました。「神おろし」から「神あげ」まで全14演目 8団体の舞いが披露されました。盛岡大学文学部の門屋光昭教授の解説も行われ、集まったお客さんを魅了しました。

出演保存会

長清水山伏神楽保存会・村崎野大乘神楽保存会  
宿大乘神楽保存会・新平神楽保存会・上宿和賀神楽保存会  
和賀大乘神楽保存会・道の上山伏神楽保存会

特別出演

胡四王神楽保存会 (岩手県指定無形民俗文化財保持)

## ■ 芸能公演

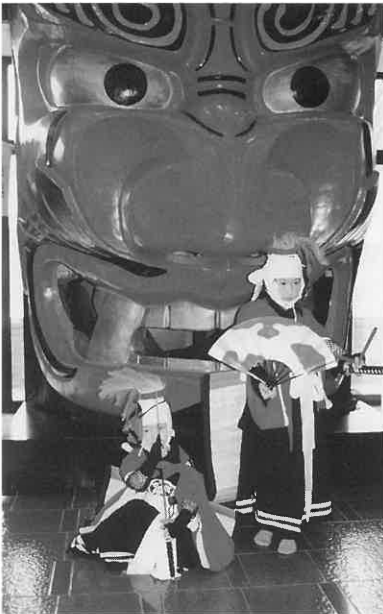
4月から10月までの第4日曜日に開催している鬼の館芸能公演。市内の各保存会の協力



を得て約1時間のステージをご鑑賞いただけます。当館学芸員の解説付きです。鑑賞無料ですので是非ご覧下さい。

## ■ こどもの日わくわくイベント

5月5日のこどもの日に、気軽に楽しめる創作活動等を通じ“鬼”に対する理解をめざします。今年、鬼剣舞の衣装を身に着けて鬼に変身したり、お面の絵付けや妖怪ふうせん作り、かぶと作りを楽しみました。5月5日は小中学生入館無料です。



## ■ 鬼学講座

生涯学習の一端として開講している成人対象の講座です。

「鬼の源流を求めてパートIX ～墓制とその習俗～」と題し、県内から講師陣をお迎えし、鬼の実態的姿を考古学的な見地から探求し鬼についての理解を深めます。

全6回（移動研修あり）



## ■ 鬼ッズ・プレイミュージアム

鬼になったり、鬼で遊んだり、鬼をつくったりできる、子供のための遊び場、それが“鬼ッズ・プレイミュージアム”です。活動の中心となっている「和紙面づくり」は東和町の成島和紙を用い、張り子の技法で制作します。来館時に体験する他、北上市の出前講座に「和紙面づくり」が組み込まれ、市内子供会や公民館、小学校の総合学習などにも活用されています。夏休みには、ワークショップを開催し今年、「魔除けすだれ」「お獅子パクパク」「鬼剣舞面」を制作しました。子供たちと一緒にお父さんお母さんも一生懸命つくりました。



## 下半期のお知らせ

### 特別展

- 土産と産土鬼 うぶなま 9月25日～11月20日
- 市民の制作作品展 12月1日～18年2月19日
- 平成17年度収蔵資料展 18年2月28日～4月16日

### 鬼学講座

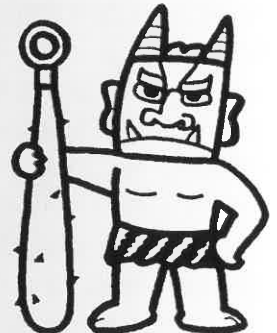
11月13日、18年1月14日、2月1～2日 開講予定

### 芸能公演

10月23日 御免町鬼剣舞保存会

### 福豆鬼節分会

18年2月5日



# 新 収集資料 紹介



仮面  
なまはげ面（赤面と青面）

製作者  
石川守三（秋田県男鹿市）

開館して10年。鬼の館では、鬼に関係する人類民族資料や人間の衣・食・住にかかる有形民俗資料の他、絵画をはじめとする美術品、骨董品から創作作品並びに観光地などで市販される土産品や鬼酒まで、広い分野にわたった多種多様の品々を資料として収集し、活用を展開してきました。

受け入れ形態としては、資料を預かり保管管理のもとで活用をはかる“寄託”や人々の好意によってもたらされる“寄贈”によるものと、さらには収集目的に応じて収集する“購入”の三通りの方法によって受け入れ、その保存活用管理を進めています。

この中の一方法によって、この度、秋田県男鹿地方に伝承され、年中行事の一つとして同地区で執り行われている「なまはげ習俗」の仮面、「なまはげ面」を地元の製作者の協力を得ることで実現し、収集することができました。

この仮面は現在、男鹿地方の保存会で活用されているほか、秋田県若美町の野石なまはげ保存会でも活用される鬼の形相をかたちどった基本的な木製の仮面です。

このなまはげに類する習俗は、秋田県の男鹿地方にだけ伝承される習俗ではなく、山形県や岩手県・青森県、さらには遠く鹿児島県や沖縄県等の各地域でも行われている習俗ですが、地域によってそれぞれの名称や装束が異なっているように、仮面の材質も地域によって様々です。木製や藁を編み上げて作られた仮面のほか、ダンボール紙や竹ザル、竹カゴ、植物の葉や実などを使用して作

られるものもあり、仮面を用いず単に手ぬぐいなどで顔を覆って来訪する習俗もあります。

また、仮面の表現形態においても鬼特有の憤怒の形相をとる基本的な形態のほか、能や神楽・田楽・番楽に使用される般若や蛇面、翁や上尉面、ベシミ面、さらに山に棲み正月に里に降りて各家に繁栄をもたらすものとされる山の神、すなわち得たいの知れない動物的特徴を有する仮面など地域によって、それぞれが固有の仮面形態をもっています。

この度収集したなまはげ面は、文化八年（1811）に菅江真澄の紀行文、「男鹿の寒風」に記された鬼面の形態に一致するものです。しかし、この仮面も前述したように一地域にだけ伝承された仮面の一資料であり、なまはげ全体の仮面仮装の習俗を決定づけるものではありません。仮面は、超越的な存在と人々が霊的交流の媒介ともなっているもので、その各土地の様々な文化と表裏一体をなし、物忌のモノに通じる靈魂の強い土俗的な精神信仰が、地域独自の仮面を媒介とし、なまはげを民俗神として祀り上げた存在と考えられることから、なまはげ仮面での鬼面の存在は、必ずしも一種に限定されるべきものではなく、土地に密着した多種多様の仮面の形態が一般的であり、現在の状況がそれを裏付けています。鬼の館では、これら仮面の収集と活用をはかることで、鬼の原像に迫ってまいります。

主任学芸員 鈴木明美

# 博物館実習

例年、博物館などで働く専門職員「学芸員」の資格取得をめざす大学生の実習を行っています。今年は2名を受け入れて、資料の取扱いや、カメラの実技など1週間の実習となりましたが、ここで実習を終えての感想をご紹介します。

北里大学  
獣医畜産学部 小田島清星

## 博物館実習を終えて

六日間という短い期間の実習に関わらず、学芸員としての様々な業務内容を実践的に学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

実習を通じて、私が最も驚いたことは、学芸員として行わなければならない業務の多彩さでした。事業企画の運営や鬼学講座の開講、資料の収蔵管理や館内の日常点検など、博物館を維持管理し、多くの人々が来館したいと思うような工夫を行うためには、学芸員としてあらゆる知識を広く持つ必要があるということを今回の実習で改めて感じることができました。

今回の実習は、地震やカミナリによる停電といったハプニングもありましたが、実習を行うと同時に鬼の館の職員の皆様の業務を間近で見ることで、業務に対する真剣な姿勢やお客様に対する配慮や想いが、大変伝わってきました。学芸員とは、一般の方々には見えない場面で様々な業務をこなし、裏方となることが多いかもしれませんが、館を支え、維持、発展させていくためには、無くてはならない存在であると思いました。

最後になりましたが、ご指導していただいた学芸員の鈴木さん、貝塚さんをはじめ、鬼の館の皆様にご心より感謝いたします。



山形県立米沢女子短期大学  
日本史学科 亀田紗都子

## 近くにできた博物館

オープン当時はまだ小学生だった私は、身に余る好奇心と鬼の博物館という物珍しさから、何度も来館し、一度は郷土芸能公演で踊り手の一人として訪れたこともあります。そんな昔から慣れ親しんだ鬼の館で、博物館実習生としてお世話になる事など、小学生だった私は夢にも思っていなかったでしょう。

実習期間は、一週間という短い期間ではありましたが、実践的で内容も濃く、一つ一つ指導をいただく中で、学校の講義では学ばなかった事、わからなかった事などを多く学ぶことができました。

実習に際し、最初はどのような実習を行うのかと緊張していたのですが、実習内容は思ったよりも面白く、学芸員の業務を学びながら、実習内容を楽しく行っていく事ができました。

実習を終えてみて、楽しい事、学んだ事、大変だった事など沢山の経験ができたと感じますが、これも鬼の館の職員の皆様のおかげだと思っています。特に一週間を通じてご指導いただいた鈴木さんには、わからなくて困った場合に優しくご指導いただき有難うございました。そして、職員の皆様にもこの場を借りてお礼を申し上げます。

本当に有難うございました。





## 鬼・妖怪そして妖精・悪魔

鬼の館 館長 カ丸 光雄

鬼と書いて「おに」と読む。しかし、鬼の字はもと「死者の霊」をあらわす。一方、「おに」の意味するところは広く、単純に「鬼＝おに」とはいない。難しい。

古く鬼は「もの」と読まれた。「ものけ(物の怪)」といえ、人にたたる霊、妖怪・変化である。いうことを聞かない子どもをおどかす時、かつて東日本では「モッケ/モッコ/モーが来るぞ」といったものだ。

姿が見えない恐ろしいもの——「おに」は「隠」からと説かれている。陰陽道や仏教の影響で、角や牙のある赤鬼・青鬼といった姿がいつしか定着する。しかし、後世の「百鬼夜行」の画図を見るに、決して「定形」の鬼ではなく、いわば妖怪の見本市である。

八世紀後半の倭(大和)の侵攻に対し、果敢に抵抗した日高見の蝦夷は「鬼」とされ、さらに山奥に逃れた彼らの末裔——山人たちもまた、平地人から「おに」とみなされた。

平安の都には、もろもろの御霊(怨霊)をはじめ疫鬼・悪鬼が跋扈する。山道には鬼賊もいた。しかし、武士の台頭とともに鬼はしだいに勢いを失い、やがて狂言の鬼のように、人間に虚仮にされる存在となる。他方、山住みの「おに」は里人との交流を求め、相手になってくれたお礼に農耕を手伝ったり、薪を持って来てくれたりする。

このように多様な「おに」、鬼を英語でどう言ったらよいか。私はためらわずに(the) oniと答える。鮭がsushiであり、餅がmochiであるように。

もちろんよその国にも(想像上の)超自然的存在、魔物・悪霊はいる。たとえばヨーロッパのフェアリ。「妖精」という訳語からまず思い浮かぶのは「羽の生えた、小さい女の子」ではなかろうか。実はフェアリには男も女もいて、必ずしも小さいとは限らず、概して醜いものが多い。人間の姿をしたのも動物の姿をしたものもある。そして多くは毛深い。フェアリは「死者の魂」だとする説がある一方、「魂を持たない」ともいう。

日本の鬼に近いものに、大きくぶかっこうで醜いオウガ(女性はオウグレス)がいる。好んで人間を喰い、

恐れ知らずの一方、間抜けだという。フィン(ド)になると、非情・邪悪な「悪鬼」といってもよい。かつてイングランドでは、子どもをたしなめる際に「ボーギーがさらに来るぞ」といったという。このフェアリは毛むくじらのゴブリンである。

キリスト教社会では、悪魔——デモン demon、デビル devil は神 God に敵対する邪悪な精霊であり、すべて異教徒の神々は悪魔とされる。The Devil といえ、Satan \*と同じで、悪魔の軍勢の指揮官である。

\*英語ではセイトゥン。ときにサターンと混同されるが、Saturn はローマ神話の農耕神。

以上述べたように、洋の東西を問わず、妖怪・魔物は広く存在する。日本の「おに」との共通点も少なからずある。以下、主にヨーロッパの例にしばって比較してみる。

- 古代の神のうち「邪しき神・荒ぶる神」というのは「おに」にほかならず、雷すなわち鳴神は鬼の姿に描かれている。デモンの語源であるギリシアのダエモンは、神でありまた時には神と人との間に位する存在。妖精ニフは女神でもあり、パーンは半神半獣である。
- 鬼の「標準身長」はほぼ一丈(約3m)で、「大きい」ことは鬼の要件の一つである。いわゆる大人——ダイグラボッチや「弥五郎どん」はりっぱな「おに」である。フェアリもケルト人の進入以前は巨人だったという。
- 地水火風の四大(元素)の精霊を西洋ではエレメンタルという。ニフは、世界中に数多くいる水の精の一つ。日本の「河童」もこの仲間数えられる。「又三郎」は風のエレメンタルか。
- 洞窟は精霊や鬼の棲家であり、また「黄泉の国」の入口でもある。地下の地獄に、死者を苛む「鬼」がいるのも世界共通。
- 鬼は、橋や大門によく出没する。西洋でも境界線は危険な場所とされ、花嫁が抱きかかえられて家に入るのはこのような理由から。



エウリノーム  
(死者の支配者)  
F. ゲティングズ：  
『悪魔の辞典』より

- **変身能力**は、超自然的存在に共通のものである。鬼は美女や美男に化けるが、フェアリはあらゆる動物のほか、草木・石・火などに変身する。
- **老女**は「鬼婆」に化生する。ハッグもまた、人を喰ったり、病や死をもたらす「妖婆」である。ただし、ハッグが現れるのは冬で、夏には若い乙女に変身する。
- **傷害**や**病気**や**死**を魔物のしわざと信ずることは世界共通である。日本では疫鬼=疫神、とくに痘瘡神が恐れられた。西洋では古くはdeathは疫病も意味し、Death死神は手に大鎌を持つ黒衣の骸骨で表されている。
- 「**さらうこと**」も世界中の魔物に共通する。対象は大方「若くてきれいな女/男」。
- **血を吸う**妖精ヴァンパイアは世界各地にいる。日本では佐渡の「弥三郎婆」がその例。
- 家に住みつく「**家付き**」フェアリは広くヨーロッパで信じられていた。彼らは一般に悪ふざけが好きだが、気分しだいで親切にも意地悪にもなる。「**座敷童子**」はこの類である。これと反対に、家や人にとりついて貧乏にさせる「**貧乏神**」も日本にはいるようである。
- 「**おに**」はさまざまなかたちで**鉱山**とかかわっている。中国山地や丹波山地などの製鉄地帯の鬼伝説もさることながら、日高見のアテルイが「鬼」となって守りたかったものに、金や鉄の豊かな**鉱物資源**があったのではないか。ヨーロッパでは、コーボルトなどのエレメンタルが、大地の中の「**宝**」を守っている。
- フェアリは鉄をきらうというが、**鍛冶屋**の妖精もいる。刀鍛冶を助ける鬼の話が日本にある一方、西洋でも悪魔と鍛冶屋は関係が深い。
- 節分の鬼を払うため戸口に**ヒイラギ**を差す習慣は日本各地にあったが、西洋でもヒイラギやナナカマドは「魔除け」の木とされる。

## 『できごと Oni ミュージアム』

### 「絵で見る義経」資料展

ファンでにぎわう (岩手日日 4/4)

### 発祥地をアピール

24日の岩崎鬼剣舞皮切り

(岩手日日 4/13)

### 沢内村に生息する鳥や動物生き生きと

今日から藤田敏夫彫刻展

(岩手日日 4/26)

### わくわくイベントいっぱい!

鬼っこわんぱく講座

(週間きたかみ 4/30)

### 伝統の舞 来場者魅了

2年ぶり大乘神楽大会 (岩手日日 6/14)

### 仮面文化と精神信仰の差異を

特別展 メキシコの鬼神

(週間きたかみ 7/2)

### 「墓制とその習俗」テーマに

10日から鬼学講座 (岩手日日 7/3)

### メキシコの「鬼」一堂に

仮面文化を紹介 利根山画伯収集の作品

現地で描いた習俗スケッチも

(岩手日日 7/4)

### 鬼の館で「三鬼画人展」

独創的な美術作品 (週間きたかみ 7/23)

### 夏休み鬼っこ大体験

工作講座や合宿も大賑わい

(週間きたかみ 8/6)

### 鬼の表情個性豊かに

親子で和紙面作り (岩手日日 8/3)

### 鬼剣舞帰省客らを魅了

鬼の館で芸能公演 (岩手日日 8/15)

### 合宿で洞窟探検楽しむ

北上・鬼の館 (岩手日日 8/17)

### 笑いの鬼、山の神の鬼そして芸能の鬼三態

鬼の館 (週間きたかみ 8/27)

### 豊かな表情でほっと一息

特別企画「三鬼画人展」

(週間きたかみ 8/27)

## 鬼の里だより

### 企画展・特別展

- 〈特別展〉平成16年度収蔵資料展  
3月1日～4月17日＝入込客数 1,780人
- 〈特別展〉開放事業①  
藤田敏夫 彫刻展「森の仲間たち」  
4月26日～6月4日＝入込客数 3,801人
- 〈特別展〉メキシコの鬼神 ～カーニバルの神々～  
6月14日～7月14日＝入込客数 2,063人
- 〈企画展〉三鬼画人展 ～百鬼百様～  
7月24日～9月15日＝入込客数 5,375人
- 〈特別展〉土産と産土鬼  
9月25日～（開催中）

### 鬼の館芸能公演

4月24日	岩崎鬼剣舞保存会	観客	120人
5月4日	飯豊鬼剣舞保存会	観客	268人
5月22日	鬼柳鬼剣舞保存会	観客	137人
6月26日	滑田鬼剣舞保存会	観客	160人
7月24日	口内鬼剣舞保存会	観客	119人
8月14日	二子鬼剣舞保存会	観客	143人

8月28日	相去鬼剣舞保存会	観客	147人
9月25日	谷地鬼剣舞保存会	観客	90人

### 鬼っこわんぱく講座

5月5日	「こどもの日わくわくイベント」	参加者	165人
8月1日～3日	「鬼っこ合宿 ～黄金バットをさがせ～」	参加者	23人

### 大乘神楽大会

6月12日		観客	280人
-------	--	----	------

### 鬼ッズ・プレイミュージアム

4月1日～9月30日	張り子面作り	参加者	197人
	出前講座	参加者	83人

### 〈夏休みワークショップ〉

魔除けすだれを作ろう！	(2回)	参加者	39人
お獅子パクパクを作ろう！	(2回)	参加者	19人
鬼剣舞面を作ろう！	(1回)	参加者	18人

## 利用案内

**開館時間** 午前9時から午後5時まで。  
なお、入館は午後4時30分まで。

- 休館日**
- ・12月～3月の月曜日
  - ・12月～3月の国民の祝日の翌日  
(土・日・月の場合は火曜日)
  - ・館内整理日(11月27日～11月30日)
  - ・年末年始(12月26日～1月4日)
  - ・臨時休館日(5/24・7/26・9/27・11/22)

**入館料**

一般	300円(250円)
高校生	200円(150円)
小中学生	150円(100円)

( )内は20人以上の団体料金。  
下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・学習活動で申請利用する時

**交通案内**

- ・JR北上駅西口よりバスで25分。  
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行。「岩崎橋」下車徒歩10分。
- ・JR北上駅より車で20分。
- ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



## 北上市立鬼の館だより

第23号 2005.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地  
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508